

令和元年度 第1回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 令和元年7月2日(火) 10時00分～11時40分

<開催場所> 宇治市役所5階 501会議室

<出席者>

長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
平井 恭子	京都教育大学 教授
真山 達志	同志社大学 教授
服部 広志	株式会社 京都銀行 宇治支店長
西村 徹也	連合京都南山城地域協議会 事務局長
大橋 晶子	株式会社京都新聞社 南部支社長
小長谷 敦子	公認会計士
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事
寺川 徹	市民公募委員
日野 真代	市民公募委員

計10名

<事務局>

木村 幸人	宇治市副市長
貝 康規	政策経営部長
荻野 浩造	政策経営部副部長
中嶋 久子	政策経営部行政経営課長
本間 雅人	政策経営部行政経営課副課長
川瀬 理恵子	政策経営部行政経営課経営推進係長

計6名

<傍聴者>

3名(報道関係者含む)

<会議内容>

1. はじめに

2. 委嘱状の公布

山本市長より委嘱状を交付

3. 委員自己紹介

各委員より自己紹介、挨拶

欠席委員の報告

4. 市長の挨拶

山本市長挨拶

5. 正副委員長の選出

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要項第5条に基づき選出

6. 開会

(議事) ①第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定について

委員長) それではここからは私の方で進行を進めさせていただきます。次第に基づいて進めてまいります。会議に入ります前に、本会議につきましては原則公開することになっております。また会議録を作成するために事務局の方で録音をされますということ、それから会議録を公開されますということをあらかじめご連絡申し上げます。ご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。

また、本日の会議を傍聴される方がいらっしゃいますので併せてご連絡いたします。

では、これより第1回宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開催いたします。それでは最初に、事務局から自己紹介をお願いできればと思います。

《事務局より自己紹介》

委員長) ありがとうございます。それでは議事に入ります。議事の第1ですが、「第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定について」ということでございます。では、事務局からご説明をお願いいたします。

《資料に基づき事務局から説明》

委員長) ありがとうございます。ただいまご説明いただきました内容について、委員の皆さんからご質問をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員) ご説明いただいたスケジュールの、10月のところにパブリックコメントと市民懇談会が入っていますが、これはどういう関係性を持つもののでしょうか。パブリックコメントを集めるための市民懇談会なののでしょうか。

事務局) パブリックコメントと市民懇談会は違うもので考えておりました、パブリックコメントは宇治市から初案を出してご意見を求めるという形になると思っておりますし、また、市民懇談会については、詳細は確定しておりませんが、市民の方に参加いただく中で、創生総合戦略に沿って取組を進めているというところをお示しし、説明をさせていただいた上で、ご意見を賜るという形で考えているところでございます。

委員) もしかすると、パブリックコメントの内容が良くなって手厚くなるのはワークショップがあつて、そのあとでしょうか。時期の問題なんですけど、どちらが先なのでしょうか。

委員長) 一般的にパブリックコメントはなかなか意見が出ないので、ワークショップなどをして関心を高めるとか、より多くの市民の方から意見をいただけるような取組をしていくということで、委員の趣旨はそういうことかと思っておりますので、ご検討いただければと思います。

他に何かないですか。第2期の創生総合戦略を作るにあたりましては、今説明がありましたように、第1期の創生総合戦略の検証、また、Society5.0やSDGsなどの世の中の動きも踏まえまして、それを検討した上で策定していくという方針を持っておられるということでございます。

スケジュールにつきましては、だいたい表にあるようなスケジュールで進めていくということで、全般ご了解いただけますでしょうか。特に問題点とかございませんか。実際の内容はこれからということで、大枠ということですが、この点はご了解いただけますでしょうか。

はい、ありがとうございます。では、策定等については委員の皆さんもご了解いただいたものとさせていただきます。

(議事) ②人口動向・推計について

委員長) それでは議事の2番目にまいりたいと思います。②は「人口動向・推計について」ということですので、これについても事務局からご説明お願いいたします。

《事務局から説明》

委員長) ありがとうございました。では、ただいまの説明に関しまして、ご質問やご意見ございましたらお願いいたします。

推計ですので、宇治市の人口は一つしかないのですが、計算上はいろんな数字が出ています。ご質問でも結構ですので、何かございませんでしょうか。

委員) 人口減少の年齢別というか、働く世代はどんな感じになっているのでしょうか。

事務局) 働く世代の転入出で見ますと、20代の人口の流出がやや多いところでございます。京都市から子育て世代を取り込んでいる一方、例えば城陽市や京田辺市に同じくらいの人口流出もあるような状況でございまして、それをどういうふうに止めていくのかというの、一つカギになると考えています。

委員長) 今、ご質問があったように、人口動態、世代毎の人口動態がどうなっているのかというのは、まちづくりの観点では重要になりますので、総人口も重要ですけども、世代毎も考えていく必要があると思います。何かございませんでしょうか。

委員) 人口が増加している自治体で、向日市、木津川市、大山崎町などがありますが、その要因を分析されているのでしょうか。

事務局) 特に長岡京市、向日市、大山崎町は、新駅等が最近出来まして、それに伴いまして跡地、周辺地の開発が進んでいるという状況がございまして、また、木津川市につきましては、住宅開発が進んでおり、人口が増加している状況であると考えております。

委員長) 宇治市くらい成熟していますと、転入してもらおうと思うと、新たに土地や建物をどんどん増やすとか、そういうことが難しいので、なかなか知恵を出さないと人口を増やすことは難しいのかなという気がします。

委員) 同じ表の人口減少で、精華町の自然増減と社会増減がプラスマイナスゼロになっているのは、何か要因があるのでしょうか。

事務局) 今、分析をしているところでございますけれども、精華町につきましては住宅開発がまだ新しいというところがございます、そこの新しい世代が、ちょうど出産の適齢期を迎えておられるというところで、自然増減については維持をされている状況にあるのではないかと考えております。

委員) 人口の増加というのと少し違うかもしれませんが、近隣の市町村の中でも工業団地を持っているところが、今、外国人労働者がものすごく増えてきていると新聞を読んだことがあります。宇治市はそういう工業団地はあまりないと思うのですが、その動向とか、外国人が日本で結婚してお子様が産まれることとか、教育とかを考えていけないと思いません。

事務局) おっしゃっていただいているとおり、外国人の労働、最近、国の方でも法整備をされる動きがありますけれども、その流れについては施策のところでもいろいろご議論いただくところではあると思えます。外国人をどのような形で位置づけるのかというのは、また改めて議論いただく内容になると考えております。

委員) そもそも外国人労働者の方は、人口動向の数字に含まれているのですか。

事務局) 現在、ここに記載をさせていただいております人口動向については、国勢調査の人口がベースになっておりますので、そこに住んでおられる方を対象に調査をしております。

委員長) 3か月以上住んでいたらカウントされるのではないですか。

事務局) そうですね。またきちんとお調べさせていただきますが、おそらく含んでいるものだと考えております。

委員長) 今後、外国人の方が法改正もあって増えるとは思いますが、人口動態を左右するほどの流入、流出ってというのはないだろうとは思いますが。ただ人口の問題とは別に、先ほど事務局からのご回答にもありましたように、外国人の方が増える中で共生社会といいますか、そういう点で別途色々検討すべき項目ではあると思えます。他に何かございますか。だいたいこの件はよろしいでしょうか。

では、人口動向や推計につきましては、資料ということで今日お示しいただきましたことを踏まえまして、今後人口ビジョンをどうするのか、そしてそれを実現するための総合戦略の中身をどうしていくのかということを考えていく上で、決して楽観できるような状況ではないですけれども、これまでの取組などもありまして、社会減というのが少し収まってきている、一時期の非常に危機的な状況はとりあえ

ず脱しつつあるという傾向は見られます。ただこれもあまり油断をしますと、周辺の都市も同じように総合戦略等の取組をやっておりますので、ある種取り合いと言いますか、そういうことが起こっておりますので、宇治市としても気を引き締めて色々なことをやっていかないといけない、その辺を念頭に置きつつ、今後の総合戦略の検討を進めていきたいということで、ひとまずこの件についてはよろしいでしょうか。ありがとうございました。

(議事) ③アンケート調査について

委員長) それでは次にまいりますが、次は③「アンケート調査について」ということですので、これも事務局からご説明お願いいたします。

《事務局の説明》

委員長) アンケートについてのご説明をいただきましたが、ご質問ご意見ございましたらお願いいたします。

委員) 今回のアンケートでも検討されていると思うのですが、問いかけの仕方を工夫されないと、結局今までと同じような結論になり、そんなに大きく変わらないのではないかと思います。「宇治市にどういった魅力があれば宇治に住みますか」「税金が安ければ住みます」とか「近くに就職先があれば住みます」とか、突拍子もない意見が出るかもしれませんが、「どういったことがあれば宇治市に住みたいと思いますか」みたいな、わかりやすい質問がよいと思います。

事務局) 魅力のところですね。創生総合戦略においては、魅力で交流人口等を増やしてそこから定住につなげられないかというところで取り組んでおりますけれども、宇治市の魅力としてどういうところを焦点にしていくのかを考える必要があると思っています。

魅力と言ってもなかなか幅広いところもあると思っております、問25で満足度や期待度を聞く設問を設けております。選択肢には生活基盤的などを記載しておりますけれども、例えばここにこういうものを足せばいいのではないかというふうに言っていただければ、魅力というものをそれも合わせて検討できると思いたすがいかがですか。

委員長) 委員がおっしゃったように、アンケートですとどうしても選択肢を用意して選んでもらうという形になってしまいます。こちらで考えた選択肢とは全然違うところ

を魅力に感じている人もいるかもしれないし、市としてはあまり意識をしていないところに不満をもっている可能性もあるというのを、引き出せるようなそういうアンケートの質問もあっていいと思います。そのためには自由筆記しかないのかなとは思いますが、ただ、あまり抽象的な自由筆記欄を作っておいても書いてくれないのでね。そこのあたりをどうすればいいのかっていうのはちょっと難しいんですけども。

今の案で言うと、「宇治市について日頃感じていることを記入してください」という設問が最後にありますけれども、こう聞かれると「さて、何を書けばいいのかなあと。あるんだけども、何をどう書こうか非常に悩んで、よほど意欲的な人以外は飛ばしてしまいますのでね。「一番魅力に感じているものは何ですか」とか、もう少し具体的な聞き方をして、なおかつ自由に書けるという、そういうのがあっていいのかもしれないとは思いますが。

委員) うちも娘が二人いまして、働きだしたんですけども、全く価値観が私と娘では違うなど。例えば結婚についても、上の娘なんかは「結婚しないかもしれない」と今から言っているくらい、生き方や価値観がすごく多様化しているのだなと感じています。だからおっしゃっているみたいに、問いかけの仕方も難しいと思います。

ということは、これからの自分自身の生き方を、私たちが思っている生き方と違うことを、もしかしたら若い世代の人たちは求めているんじゃないかな。それが、もしかしたら生きがいであったり、社会参加であったり、働く、うまく言えないですけど、「生きがいみたいなものは、あなたにとってどんなことですか」とか、そういうことを入れてみたら、もしかしたら魅力のうちの一つになっていくんじゃないかな。私が子供のころは、良い学校に行って良いところに就職すれば幸せになれるって親に育てられてきた価値観ですけども、今それを同じように子供たちに言っても通用しない時代になってきていると思うんです。じゃあ、何を求めて生きていくのか、それを宇治で住んで幸せとを感じるのか、すごく変わってきている気がしていて、そこを探せる糸口が見つかったら、宇治の魅力とリンクさせて、まちづくりにつなげていけないかなと思いました。

委員長) おっしゃっていることは皆さんご理解いただいているかと。アンケートの中で、例えば世代とかそういうことで分けた時に、どういう価値観があるのかをアンケートでどうしたら聞き出せるか、これは難しいですね。ただ、市として作るアンケートの中にあんまり突拍子もない選択肢を用意できないということもあって、割と無難なことしか書いていないですよ。実は答えている方にも、どの項目にもあてはまらないなということがあがる可能性もありますよね。

だから「その他」を作るんですが、「その他」は必ず自分で書かないといけない、考えないといけないので、答える側は面倒臭いんですよ。どうすればいいのかわ

てというのが非常に難しい。これはアンケートを取った後の集計作業、分析作業なんかの時に、今の委員のご発言のように、アンケートにはこうなっているからということだけに引っ張られるのではなくて、やっぱりいろんな価値観、声に出ていないものもあるっていうのも、少し考えないといけないという気がします。

委員) 有効かどうかわからないですが、やっぱり最後の自由記述っていうのも大事で置いとかないといけないと思うんですけども、おっしゃっているように、文章を書くのってすごく大変で、でもやっぱり価値観も大事なので、例えば3つ小さい括弧で、「あなたの大事なもの3つ」を最後に書いてもらうとか、簡単だけれども何か少し、長文は書けないけど、ひよっとしたらそれが家族だったり仕事だったり、自由だったりするかもしれないけれども、それがまた今後の人口を増やしていくことに役に立つかどうか分からないけれども、あってもじゃまにならないのなら、そういうのはどうですか。

委員長) おそらくアンケートはこれまでにいろいろ実施されたアンケートもありますので、経年変化ですとか比較とかあるので、従来どおりの項目というものは残さないといけないと思うので、あまり項目、質問を増やすのも善し悪しではありますが、今のご意見のように、今まで聞いていなかったような聞き方で新しいことを聞いてみるっていうのは、ちょっと工夫として入れてもいいのかなと思います。

さっきご説明にありましたように、割と短い間隔で似たようなアンケートをいっぱい取っていますよね。だから、あまり同じことばかり聞いていてももったいないので、たまには今あったようにちょっと普通のアンケートでは聞かないだろうというような「大事なもの3つ」とか、こういうアンケートでは多分ないかもしれませんが、そういう項目もあってもいいんじゃないかなと思います。

委員) 前回の会議で、アンケートのスタートのところが性別、年齢から始まるが、後ろに書いた方が、違和感がなくなるのではないですかとお伝えしました。それと同じ考えで、自由記述欄が最後になっていますけれども、途中でちょっと変化球っぽく、簡単に書けるような形なら、自由記述欄でも抵抗が減るのかなと思います。その欄がものすごく大きいとプレッシャーかかりますが、小さい欄で一つだけなら意外と書いてくれるんじゃないかなと思います。

あと一つは、同じようなアンケートをしていて、大体傾向が見えるという話ですけども、フォーマットを変えられないということであれば、その対象を変える努力みたいなもので、このアンケートはIT化しないんですか。集計も楽になるだろうし、紙のコストも減るだろうし、そうすると今までとは違う層からの反応が返ってくる。層の偏りっていうのがITに強い人っていうのが出てくるかと思いますが、そういうこともやってみてはいかがでしょうか。

事務局) いろいろとご意見ありがとうございます。先ほどの自由記述のやり方については、ご意見を参考にさせていただきながら、アンケート調査を最終確定させていただきたいと思います。

次にIT化ですが、事務局でも考えてはみましたが、広く宇治市民を対象にしているところもございましたので、例えばホームページ上だと、それが皆さんの目に留まって答えていただけるのか、また、メールを対象の方にどういうふうな形でお送りしたらいいのかなど、なかなか難しいところもありまして、今回は書面ということにさせていただいたところでございます。

委員) 市民とか、宇治市内で働いている人を対象にしないといけないというのと、ホームページなら完全にここにあるというのを限定しないといけないですけど、例えば市民課に来られる方にチラシみたいなもので、このQRコードでやってくださいだったならある程度限定されるのかなと思います。

IT化の逆の方向で無作為に送るということで、アンケートをやりますけれども、少し違う意見となったら、例えば子育て世代の人たちがいるところに行って10%は取るとか、そういう形にすれば、いつもとは違うところからの意見が出てくるのかなと思います。

委員) アンケートは、市民の方を無作為にいろんな職業の方を選んで配布しているということですか。それを取ったとしてどれくらいの回収率なのでしょう。結構こういうのは、私もアンケートをやることがあるんですけども、みんな面倒臭がるんですよ。なかなか集まらなかったりして、書いてくれる人だけの意見になってしまう。できるだけアンケートをしてもらえようとする工夫をしないと、意見の集約が難しいのではないのでしょうか。アンケートの回収率がどのくらいなのか教えて欲しいです。

事務局) 直近のところで転入出のアンケートとか、定住促進のアンケートをさせていただきましたけれども、転入者を対象にしたものについてはおよそ30%弱、定住者も30%前後というところでございます。前回、結婚、就労とかいう形で、若い世代を対象にさせていただいた時の調査につきましては、もうちょっと下回って20%から25%前後というような状況でございます。ただ、当然許容誤差というのはカバーできるような形で、だいたい5%の誤差には収まるような形で的人数は集まったと思います。

委員長) 自治体のやる郵送アンケートで30%いったら上等というのが一般的だと思います。やっぱり若い層向けのものは、回収率が落ちるんですね。20%。投票率と同

じょうな傾向ですね。

委員) 先ほどアンケートがなかなか返ってこないという話もありましたけれども、やはりアンケートはすごくその方の大切な時間を割いていただいて、個人情報をお渡しするわけですので、やっぱり丁寧にさせていただきたいなというのがあります。前回と今回を見比べさせていただいたら、前回、性別のところでは配慮があるんじゃないですかというお話をして、今回それがついてないんですよ。先ほど、生き方が多様化しているということでしたけれども、性も多様化してきていますので、最近のアンケートは性別はいらんっていうところも多くなっている中で、ここはあえて今後の人口の増減についてアンケートを取っていかないといけないところで、絶対性別を書いてほしいんだということがあれば一言お願いを入れてくださいというのは言っていたと思うんで、今回あえて取ったのかどうかというのをお聞きしたいです。

出産子育てについてのアンケートで、問14のところ、ただでさえ面倒臭いアンケートを取ってもらうのに、嫌な気持ちになるのはどうかしらというのはいくらあるもので、やはり言葉も気を付けていかないといけないと思います。「理想の数よりも現実の子供の数の方が少なかった方へお伺いします」という設問で、今、私は子育て支援をやっていまして、普段は就学前の親と子が集う場所で仕事をさせてもらっているのですが、その中で、お子さんを欲しいと思っている方がいらっしゃいますし、結婚する年齢が高くなって妊娠が難しいという方も増えています。今、割と多いのが、第一子さんは産んでいるけれど、第二子で不妊になるっていう方もいらっしゃって、そういう方がこのアンケートを手にとった時に、本当は欲しんだけど、現実より数か少ない方って言ったときに、その人が「その他」にそれを書かないといけないのか、「健康上の理由で妊娠、出産が困難だったから」なのか、健康上は単に病気のことなのか、不妊ですごく悩んでいる人が、「不妊治療中」って書くのもどうかわかりませんが、そこを自分で書かないといけないのかなというのが気になります。

あと問15のところ「行政の出産、子育てにかかわる支援についての満足度」なんですけど、3番に、「幼稚園、保育園、認定こども園に満足していますか」というのがありますが、入所した方は大概満足している方が多いですけども、とても不満に思っておられることは入所できるかどうかかなんですね。そこはないのかしらっていう、一番そこを皆さん声を大にして言いたいところなんじゃないかなと、ちょっと思いました。以上です。

事務局) まず、性別につきましては、委員がおっしゃるとおり、市でも性別をどう聞くべきか、どういうふうにお伺いすべきかというのは考えまして、今回はその人の価値観で記入いただくような形にさせていただいているところです。注意書きについては、性別をお伺いするにあたって、やはり書く必要があるかなと思いますので、「こ

の調査については男女の意識の差とか、行動の違いを把握するため必要なためお伺いするものです」というような注意書きを追加させていただこうと考えております。すみません、そこはそういう配慮をさせていただかなければいけないかなと思います。

あと、問14の聞き方ですが、これは今のお話をいただきまして、確かにこれについてはデリケートな質問でもございますので、質問の仕方については考えさせていただこうと思います。

問15についてですが、入所できるかできないかの満足ということですね。その聞き方について、どういうふうなところに満足されているのか、入所しているかどうかというのをどういう表現をするかも含めて考えさせていただこうと思います。

委員) 今なぜそんなことを言ったかと言うと、人口の転入転出の話をしたときに、子育て世代の転入が転出より多くなっているという話になって、広場なんかでも聞くんですけども、宇治市が入園の待機児童が国のカウントの仕方だと、今ゼロになっている。宇治市がゼロと聞いて京都市内から転入しようとしてきている人の声も聞くんですね。でも、実際は宇治も入れないところもある、ということがあって、すごくギャップがあったりして、本当に今子育てしている人たちは翻弄されているのかなとちょっと思っています。ここは大事なんじゃないのかなというふうに思いました。

事務局) 言っているとおおり、入所についてなのか、今の子育てなのか、具体的に何が満足で、何が不満なのかわかるようにする必要はあると思います。

委員長) 他に何かございますでしょうか。最初の説明にもありましたように、このアンケートは、予定でいいますと今月中にもう実施するということになっているんですね。あまり時間がない中で、質問等を完成させて実施ということになりますので、今いただきましたご意見すべてを反映するところまではなかなか修正できないかもしれませんが、いくつかかなり重要なご指摘をいただきましたので、修正するところは修正あるいは追加するというところで、アンケートの質問票を完成させていただいて、おおむねこのような内容のアンケートを7月下旬あたりにするという方向性についてはご異論ございませんでしょうか。

どの部分をどう変えるかという事について、もう一回この会議で議論するという時間的余裕もございませんので、その部分についてはいただいたご意見、アドバイスを参考に事務局の方で修正を加えるということで、事務局一任ということでお認めいただけますでしょうか。では、可能な限り、今出ましたご意見、アドバイスを反映した形で事務局の方で質問票を完成させ、アンケートを実施していただくということでお進めいただければと思います。いろいろとご議論いただきましてありが

とうございました。

では、アンケートについての議論は以上とさせていただきたいと思います。それで、次第の方では用意しております議事は以上ということになりますが、何か事務局の方でございますでしょうか。それでは本日の議事につきましては終了いたしましたので、これをもちまして、閉会いたしたいと思います。ではこの後の進行は事務局にお願いします。

7. 閉会

事務局) 長時間にわたりまして、ご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。
木村副市長の方よりご挨拶を申し上げたいと思います。副市長、お願いいたします。

《木村副市長より挨拶》

委員) すみません、ひとつだけ追加させてもらってよろしいですか。先ほど委員からご指摘があったかと思うんですけども、周辺の自治体を見ていると、転出超過が小さくなってきているのは、外国人労働者が増えてきているためと思っていて、お隣の久御山町でも人口の割合で3%の外国人がいるようになっていまして、新聞の出生欄なんかを見ていると、赤ちゃんが産まれて、どんどん定住するようになってきていると思います。

この4月で入管難民法が改正されまして、どんどん定住される外国人も増えていって、かなりその辺は大きく変わっていくのかなと。この5年間で言うと、相当大きく変わっていくだろうと思います。やっぱりその辺の動向をきちっと数字でも把握していないと、施策も間違えらるうと思いますし、このアンケート一つ、外国人は絶対に答えませんので、そこから完全に排除されてしまうのはどうなのかなと思っていて、その辺の視点をどこかに数字に入れていただければな、というふうに思っております。あとから申し訳ございません。

事務局) ありがとうございました。次回の会議につきましては、8月下旬に予定をしておりますので、また改めてご連絡をさせていただきたいと思います。またどうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。